

本質的な問い 地域と共に生きるにはどうすればよいのだろうか。

単元名 いざというときのために～自分たちの命を守る方法を知ろう～

児童生徒の実態

- ・地域との関わりにおいて個人差がある。また、コロナ禍により、地域との関わりが減少している。
- ・避難訓練等を通して防災についての知識や情報は少しずつ増えているが、自分の住む地域で災害が起こるとは思っていない児童が多い。

目指す具体の姿（育成を目指す資質・能力）

- ・地域の特徴に気付き、課題の解決に向けて、事象を比較・分類・関係付ける等の技能を身に付けることができる。（知識・技能）
- ・対象との体験的なかわりを通して、自ら取り組む課題を考え、集めた情報を整理・分析して分かりやすく表現することができる。（思考力・判断力・表現力）
- ・防災の問題について主体的に取り組み、自分なりに解決しようとする意欲を養う。（主体性）

単元を貫く問い 自分たちの命を守るために、何ができるだろうか。

【探究課題 地域の環境、防災のための安全な町づくりとその取組】

【第3次】（ 7時間）

課題 みなとまちの安全を守りたい！

個別の問い

- ・整理した情報を生かして、自分たちができることはどんなことだろうか。
- ・考えた活動は、みなとまちの安全を守る活動になっているか考えよう。
- ・これまで取り組んできた活動を通して、みなとまちと共に生きていく上で大切なことは何だろうか。

港町小の全児童

保護者

地域の人々

（しかけ）

- ・子どもでもできる防災を呼びかける取組があることに気付く。

【第2次】（ 8時間）

課題 みなとまちの安全？危険？探検隊！

個別の問い

- ・校区内での危険な場所、安全な場所はどこだろうか。
- ・災害が起こった時安全を守るために、どんな準備が必要だろうか。
- ・集めた情報を整理して、どんなことが分かるだろうか。

急傾斜地等の看板

ハザードマップ

（しかけ）

- ・自分が住む付近にある「危険な場所」「安全な場所」を見つけるポイントを知る。

【第1次】（ 7時間）

課題 みなとまちにも災害は起こる？

個別の問い

- ・西日本豪雨災害の時に、港町の校区ではどんな被害があったのだろうか。
- ・西日本豪雨災害で呉市の被害が大きかったのはなぜだろうか。
- ・港町の校区では、災害は起こらないだろうか。

西日本豪雨災害時の資料

防災士

保護者

見直しポイント

探究的な学習の過程に沿った単元構成

- ①単元を通して、資質・能力を育成する「探究課題」等を設定しているか
 - ・解決の道筋がすぐには明らかでない課題や、一つの正解が存在しない課題となっているか。
 - ・児童生徒が日常生活や社会に目を向け、解決したいと思える課題となっているか。
- ②児童生徒の思考を想定し、効果的な過程になっているか
 - ・活動をこなすだけになっていないか。
 - ・児童生徒から問いを生み出すしかけがあるか。
 - ・学習したことを表現する場を設定しているか。
- ③サイクルとサイクルのつながりがスムーズとなっているか
 - ・第1次だけで構成していないか。
 - ・第1次のまとめと第2次の課題設定が繋がっているか。

（しかけ）

防災士の井上さんの経験から、「港町には危険な場所がたくさんある。」という話を聞くことにより、どこが危険でどこが安全な場所なのかを自分で調べてみたいと思わせる。